

令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：82111

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K15341

研究課題名(和文) 農山村の地域づくりに参画する外部人材のコンピテンシーの解明

研究課題名(英文) Elucidation of competencies of outsiders in rural areas

研究代表者

房安 功太郎 (Fusayasu, Kotaro)

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構・北海道農業研究センター・主任研究員

研究者番号：90738957

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の結果から、6次産業化等の取り組みに関して、外部人材が各種の取り組みに貢献していることが明らかになった。また、外部人材の有するコンピテンシーを明らかにした。それらコンピテンシーには共通のものが存在する一方で、取り組みの性質や、外部人材としてどのような立場で関わるか等によって異なることが示唆された。また、地域との関わりにおけるものも重要となる場合があることが示唆された。その他に、農業における外部人材のコンピテンシー等も明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の結果から、農業や6次産業化等の分野における外部人材の有するコンピテンシーが明らかになった。また、外部人材の取り組みの内容や貢献の内容についても具体的に明らかになった。これらの本研究の成果は、農山村での人材の受け入れや育成において活用可能と考えられる。

研究成果の概要(英文)：In the sixth industrialization, etc., it became clear that outsiders are contributing to activities. In addition, I clarified competencies of outsiders. It was suggested that while there are common competencies, there are different competencies depending on the details of activities and what kind of position they are involved in. In addition, it was suggested that things about the community may be important. Competencies of outsiders in agriculture were also clarified.

研究分野：農業経営学

キーワード：コンピテンシー

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

人口減少の進む農山村では、地域の様々な課題に取り組む人材が不足しており、地域外の外部人材による地域の取り組みへの貢献が期待される。そのような中で、外部人材の関わる取り組みを効果的に進めるための方策の提案等が求められる。この課題に対して、本研究では外部人材の人的側面に注目した研究を行う。外部人材の持つ能力等の差が、地域の課題に対する取り組みの内容等に影響すると考えられるためである。外部人材の能力等を明らかにすることによって、どのような能力等を持つ外部人材を受け入れることが有効であるか等を考えることができるため、重要な研究課題となる。

2. 研究の目的

農山村の地域づくりに参画し成果をあげている外部人材を対象として、外部人材のコンピテンシーを明らかにすることを目的とする。条件の異なる複数地域を対象に研究を実施し、どのような外部人材を受け入れることが有効であることを提示する。

3. 研究の方法

スペンサーら(2011:p. 11)のコンピテンシーの定義を参考にして、本研究ではコンピテンシーを「ある職務または状況において、成果を生む原因として関わっている個人の根源的特性」とする。また、スペンサーら(2011:pp. 11-14)はコンピテンシー特性の5つのタイプをスキル、知識、自己イメージ、特性、動因としており、本研究もこれに従った。

取り組みの分野や条件等の異なる複数の地域を対象に、成果をあげている外部人材を対象として、面接調査とアンケート調査を実施し、面接調査の結果を分析することでコンピテンシーを明らかにした。スペンサーら(2011:pp. 119-200)を参考にして、調査票とアンケート票の作成、面接調査、面接調査の結果の分析を行った。本研究での外部人材は、東京、大阪等の都市部からの移住者を対象とした。

以上の他に、地域の他の関係主体への調査、スペンサーら(2011:pp. 203-299)を参考にした職種別の一般的コンピテンシーの整理等も実施した。

4. 研究成果

(1) 6次産業化・農商工連携等

地域の農畜産物を利用した加工品の開発、販売等の取り組みを対象として複数事例を調査・分析した結果、以下のことが明らかになった。

外部人材の関わる各種取り組みにおける成果、活動を進める上で重要と考えられる点、外部人材の貢献の内容等が明らかになり、外部人材が取り組みに貢献していることが明らかになった。具体的には、主体間の関係構築支援、商品等の情報整理・発信、販売計画の支援、ICTの活用等の貢献が見られた。

さらに、そのような貢献に関係するコンピテンシーを分析した。その際、スペンサーら(2011:pp. 23-115)の測定尺度とコンピテンシーの名称を用いた。結果、「分析的思考」、「概念化思考」、「専門能力」、「柔軟性」、「対人関係理解」、「関係構築」、「チームワークと協調」、「チーム・リーダーシップ」、「情報探求」、「顧客サービス重視」等が対象事例から計測された。このうち、「分析的思考」、「概念化思考」、「専門能力」、「関係構築」、「チームワークと協調」、「情報探求」は事例間で共通であった。一方で、特定の事例でのみ計測されたものも存在した。例えば「チーム・リーダーシップ」は経営者として従業員を抱える外部人材の事例において計測された。以上のことから、取り組みの性質や、外部人材としてどのような立場で関わるか等によって関係するコンピテンシーが異なることが示唆された。

また、地域の文化等に関する情報を商品の販売促進に活用したり、地域内の人間関係を理解することで取り組みを効果的に進めていることなども確認された。このことから、6次産業化等の取り組みで地域との関りを伴って実施される場合には、地域との関りにおけるものも重要となることが示唆された。さらに、上記の情報の整理と活用が外部人材の視点から行われていること等、外部人材ならではのものと考えられる要素も含まれていた。

(2) 農業

農業に関わる外部人材を対象として複数事例を調査・分析した。農業の担い手不足や耕作放棄地の発生等が問題になっている地域において、外部人材が就農後に営農を継続して地域に定着し、離農する農家の農地を引き受けるなど担い手として地域に貢献している事例である。さらに、生産部会の役員を務める者、地域の生産者と共同出荷グループを組織する者など地域的な取り組みにも関わっている。このような一連の取り組みの中で、本研究では、まずは就農後に自身の経営を安定させ地域に定着する過程を分析する必要があると考え、この過程を中心に分析することとした。

また、一般社団法人全国農業会議所全国新規就農相談センター(2017:pp. 27-28)によると、新規参入者が就農時に苦労したこととして、回答割合の上位3つは「農地の確保」、「資金の確

保」、「営農技術習得」となっている。これを参考にして、本研究では、農地の確保、資金の確保、技術の習得に関連するコンピテンシーを、面接調査とその結果の分析により把握することとした。その際、スペンサーら(2011: pp. 23-115)の測定尺度とコンピテンシーの名称を用いた。結果、「関係構築」、「情報探求」、「概念化思考」、「分析的思考」が計測された。具体的には、以下のとおりである。

農地：農地の所有者との関係構築を行うことで農地を確保しており、「関係構築」が該当すると考えられる。具体的には、近隣に農地が見つからず離れた土地の所有者から借りた事例、条件の良い農地が見つからない状況で地域の活動で知り合った人から農地を借りた事例など、多様であった。営農上は直接関係しない主体とのインフォーマルな繋がりも含まれていた。

資金：公的な補助の利用、部会の補助の利用、低金利での融資制度の利用が見られた。一般社団法人全国農業会議所全国新規就農相談センター(2017:p. 29, p. 38)においても、資金の借り入れや、助成金の利用を行っていることが示されており、同様の実態が確認された。

技術：当初の技術習得において、他者から技術に関する情報を得る行動をとっており、「情報探求」が該当すると考えられる。具体的には、地域の先輩農家、部会の生産者などからであった。内容は、栽培上の問題が生じた際の対処法や原因を探るための情報等であった。その他に、近隣に他の生産者がいないため、書籍から情報を得る事例も存在した。そのような地域条件の差が影響する可能性が示唆された。

さらに、得られた情報を整理することも重要であることが示唆された。具体的には、異なる情報源からの情報の共通点を見つけるなどして情報を整理し自分なりに解釈した事例、異なる情報源からの情報の良い点をそれぞれ選択して独自の方法を構築した事例などである。

また、失敗から得た知見をもとに改善するという行動がとられており、「概念化思考」が該当すると考えられる。具体的には、高温などの条件が重なった時に作物の生育が悪くなったことから、その後同様の条件になった際には施肥を行うようになった事例などである。

その後の技術導入においては、導入前に省力化技術により削減できる労働時間を試算した事例、土壌改良資材の土壌中での作用と期待される効果を自身で考察した事例などが見られた。関係するものとして「分析的思考」が該当すると考えられるが、その他にも知識など複数の要素が関係した行動であると推察された。

さらに、技術の導入後に効果を判断するという行動がとられており、関係するものとして「分析的思考」が該当すると考えられる。方法には収量で判断する場合と、作物の状態(葉色、茎の太さなど)で判断する場合が見られた。

以上のような過程を経て、収量を向上させる等し営農を継続可能にするとともに、地域に定着した。その後、自身の技術に関する情報を提供して地域の新規就農者を支援している事例や、生産部会の役員を務めて地域的な生産技術の向上に取り組む事例などが見られた。就農後に自身の経営を継続可能な状態にしていく過程において得た知見などが、地域的な取り組みや貢献にも繋がっていることが明らかになった。

以上の本研究の結果から、それぞれの分野、地域における外部人材のコンピテンシーが明らかになった。関係する具体的な状況などについても示した。これらのうち、目的や条件に応じた項目を有する外部人材を受け入れることを一方策として提示する。また、外部人材の取り組み内容や貢献内容についても具体的に明らかになった。本研究の成果は、農山村での人材の受け入れや育成において活用可能と考えられる。

<引用文献>

・ライル・M. スペンサー, シグネ・M. スペンサー (2011)『コンピテンシー・マネジメントの展開(完訳版)』(梅津 祐良, 成田 攻, 横山 哲夫 訳)生産性出版.

・一般社団法人全国農業会議所全国新規就農相談センター (2017)『新規就農者の就農実態に関する調査結果—平成28年度—』2017年3月

<https://www.be-farmer.jp/uploads/statistics/1d1UsiQ6BUnDGT2.jp33D202003171504.pdf>

(2022年9月16日).

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 房安功太郎
2. 発表標題 農山村の地域づくりに参画する外部人材の活動内容と特性
3. 学会等名 令和4年度関東東海北陸農業経営研究会春季研究会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

—

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------